

建設業としての職業奉仕

私は建設業に携わる者として、日々の仕事を通じて「職業奉仕」の精神を実感しています。建設業は建物やインフラを整備するだけでなく、人々の暮らしを守り、地域社会の安心と発展に寄与する重要な役割があります。ロータリークラブが掲げる「職業を通じた奉仕」という理念は私たち建設業の本質そのものだと思います。

現場では安全と品質が常に最優先です。小さな判断の誤りが重大事故につながる可能性があるため、私は「この作業は地域、利用者の安全につながるか」「未来の利用者に誇れる仕事になっているか」と自問しながら業務に臨んでいます。このことが社会に対する奉仕の第一歩だと考えています。

また、建設工事は多くの企業や職人が協力して行うため、信頼関係が重要です。私はそれらの方々とのコミュニケーションにおいて、互いを尊重し、公平で誠実な姿勢をとるよう心がけています。ロータリーの四つのテストである「真実かどうか」、「みんなに公平か」、「好意と友情を深めるか」、「みんなのためになるか」を基準に行動するよう心がけています。それによって現場の雰囲気が良くなり、安全、品質の向上につながることを経験してきました。

さらに建設業には、地域の緊急事態に対応するという大切な役割があります。災害時の復旧作業やインフラの応急処置など、地域の安心を守るための活動は職業奉仕の実践です。特に令和6年7月25日に起きた豪雨災害復旧に現在も携わっていますが、当時の道路の寸断や河川のパトロール、重機を使っての通行の確保を行いました。また、冬の除雪作業に携わっていますが、大雪が続くと道路は寸断され、地域の方々の外出が困難となり、緊急車両の通行に支障が出たりします。私は深夜から重機に乗り、生活道路の除雪や排雪作業にあたることがあります。その際、住民の方から「助かった。ありがとう」と言われたことが忘れられません。地域の方から感謝の言葉をいただくたびに、私たちの仕事が地域の命綱になっていることを改めて実感いたします。除雪作業は決して華やかな仕事ではありません。寒さや視界不良の中での緊張感は大きく、危険も伴います。それでも、地域生活を守るために雪国では必要な作業であり、建設業に携わる者としての責任と誇りを感じます。建設業の技術と行動が人々の命を守り、地域の助けとなることを目の当りにし、職業奉仕の意味を深く感じました。

豪雨災害の復旧も、冬季の除雪作業も、どちらも建設業だからこそ果たせる社会的使命です。職業奉仕とは特別な行為ではなく、自分の仕事を通して社会全体をより良く暮らしやすくする姿勢そのものだと私は考えています。

安全と品質を守り、仲間と協力し、地域に役立つ技術を発揮し続けることが、私にできる最も確かで身近な奉仕です。これからもロータリーの理念とともに、地域に信頼される建設業として歩み続けたいと思います。